

4:21 律法の下にいたいと思う人たち、私に教えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。

4:22 アブラハムには二人の息子がいて、一人は女奴隷から、一人は自由の女から生まれた、と書かれています。

4:23 女奴隷の子は肉によって生まれたのに対し、自由の女の子は約束によって生まれました。

4:24 ここには比喩的な意味があります。この女たちは二つの契約を表しています。一方はシナイ山から出ていて、奴隷となる子を産みます。それはハガルのことです。

4:25 このハガルは、アラビアにあるシナイ山のこと、今のエルサレムに当たります。なぜなら、今のエルサレムは、彼女の子らとともに奴隷となっているからです。

4:26 しかし、上にあるエルサレムは自由の女であり、私たちの母です。

4:27 なぜなら、こう書いてあるからです。

「子を産まない不妊の女よ、喜び歌え。産みの苦しみを知らない女よ、喜び叫べ。夫に捨てられた女の子どもは、夫のある女の子どもよりも多いからだ。」

4:28 兄弟たち、あなたがたはイサクのように約束の子どもです。

4:29 けれども、あの日、肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりになっています。

4:30 しかし、聖書は何と言っていますか。

「女奴隷とその子どもを追い出してください。女奴隷の子どもは、決して自由の女の子どもとともに相続すべきではないのです。」

4:31 こういうわけで、兄弟たち、私たちは女奴隷の子どもではなく、自由の女の子どもです。

それでも「律法の下にいたいと思う人たちは」と、パウロは頑固な人々に勧めています。彼の何とかしたいという愛の熱心さが伝わってきます。律法とはイサクの子孫であるイスラエルに与えられたものですが、その本質は「約束」であると、パウロは言います。律法もまた神様からの約束なのです。

であるなら、十字架による救いも、神様からの一方的な救いとその後の聖霊による成長も、神様からの約束です。これは私たちにも関係することです。

すなわち、自分の力で頑張らないといけない思っている場合や、自分の力で信仰生活や主の働きを頑張ってきたと思っている人、神様の愛の約束を忘れて、自分に起源があるかのように勘違いしているのです。

聖霊に導かれている人には自由があります。また喜びがあります。同じように主のみこころを行っているようでも、人をさばいたり不平を言ったりすることはないのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

